

千葉県旭市（国内 39 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 20 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵用育成（約 1.7 万羽）

発生家きん舎の構造：2 階建てセミウインドウレス鶏舎（育成 2 号）

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直列 6 段 4 列、通路 3 本）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 平野部に位置し、農場周囲は公道（南側）、関連採卵鶏農場（東側及び西側）及び谷（北側）で囲まれていた。また、関連採卵鶏農場の公道を挟んだ向かいには、酪農牧場が所在していた。
- ② 当該農場は育成鶏舎 2 棟からなる。堆肥舎、焼却炉は当該農場の北側に独立した衛生管理区域として設定されており、関連採卵鶏農場と共同で利用していた。なお、通報時、育成鶏舎 2 棟のうち 1 棟は空舎で発生鶏舎のみで鶏を飼養していた。
- ③ 当該農場の周辺では、本年 1 月中旬以降、本病の発生が複数例確認されており、当該農場の北西約 700m には国内 31 例目（千葉県 4 例目）、北東約 1.5～2 km には当該農場と同じ 1 月 19 日に発生が確認された国内 37、38 例目（千葉県 6、7 例目）の発生農場が存在している。

3 通報までの経緯

- ① 農場によると、発生鶏舎（約 1.7 万羽、通報時 79 日齢）では、通常の死亡羽数が 1 日当たり 0～2 羽程度であったところ、1 月 18 日の朝に複数ケージでバラバラに 19 羽の死亡個体が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 調査時、当該鶏舎 2 階中央部の一番下の段のケージ等一部ケージでまとまった死亡が確認された。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、7 名の従業員がおり、5 名が飼養管理に従事しているとのこと。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 車両が農場に出入りする際は、農場入口に設置された動力噴霧器により、車両の運転手自らが車両消毒を行い、入退場記録簿への記載をしているとのこと。
- ② 従業員が農場に入る際、集卵場で農場専用の作業着、作業長靴を着用しているとのこと。
- ③ 従業員が各鶏舎に入る際は、鶏舎入口内側に設置された踏込み消毒槽（逆性石鹼）内で鶏舎外作業用の長靴を消毒後、鶏舎内に設置されている専用靴に履き替え、手指消毒を実施しており、外来者が鶏舎に入る場合も同様とのこと。消毒槽の薬液交換頻度は 2～3 日に 1 回とのこと。調査時、発生鶏舎ではすのこ等が置いておらず、鶏舎内外の境界線が不明瞭であった。
- ④ 隣接する系列農場と堆肥散布機を共用しているとのこと。
- ⑤ 農場によると、鶏舎周りには冬季は草が生えてきたら除草剤をまいており、鶏舎間は月に 1 回程度石灰を撒くとのこと。
- ⑥ 鶏舎西側の飼料タンク上部には蓋が設置されており、全ての鶏舎で鶏舎内のラインを通じて自動給餌を行っていた。
- ⑦ 給与水は、一度タンクで貯水した井戸水に活性酸素系消毒薬を添加したものを利用していたとのこと。
- ⑧ 各鶏舎に設置している除糞ベルトは 4 日に 1 回稼働させているとのこと。調査時、除糞ベルトの鶏糞の投入口には蓋はなかったが、除糞ベルトが鶏舎外部に出ている

部分については、ベルトの上部はカバーがされ、下側には金網が設置されており、猫やイタチなど野生動物が侵入できない構造となっていることを確認した。

- ⑨ 関連農場と共同利用している農場の北部にある堆肥舎には、防鳥ネットが設置されていた。農場での作業中は、音によるカラス除けも実施するため、たい肥舎にカラスが寄り付いている様子は見かけないとのこと。調査時、一部前日の風のため隙間を確認したが、カラス等はいなかった。
- ⑩ 鶏舎単位のオールイン・オールアウトを採用しており、隣接農場の採卵鶏舎へ移動後洗浄消毒を行い、空舎期間を60日～80日程度設けていたとのこと。
- ⑪ 死亡鶏は毎日朝に実施する健康観察時に回収し、農場北側に位置する焼却炉で関連農場分も含め午前中に焼却する。
- ⑫ 鶏舎平側（東側・西側）には、壁面上部（2階）と下部（1階）に吸気口があり、防鳥用の金網（網目が約2cm×2cm）及びロールカーテンが設置されていた。また、鶏舎の入口側の妻（南側）壁面には吸気口が、入り口と逆の妻（北側）には排気用換気扇8台が設置されており、ともに防鳥用金網（網目が約2cm×2cm）が設置されていた。ただし、冬季は換気扇を停止し、入口妻側の吸気口と2階部分のロールカーテンは閉鎖していた。ロールカーテンは手動で開閉可能となっており、農場に作業者がいる時間は風向きに合わせ1階部分のロールカーテンを常時10～20cm程度開け、換気を実施していたとのこと。
- ⑬ 鶏舎天井にはモニタが設置されていた。壁面同様に網目が約2cmの金網及びロールカーテンが設置されていたため、野生動物の侵入は困難と考えられた。
- ⑭ 金網及びロールカーテンの破損箇所は確認できなかった。

## 6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場によると、農場内では野生動物はほとんど見かけず、まれに猫を集卵施設付近で見かけるとのこと。また、カラスを堆肥舎の屋根で見かけることがあるとのこと。そのほか、イタチやスズメ、ムクドリを農場内で見かけるとのこと。
- ② 両方の鶏舎内でネズミを見かけることがあり、殺鼠剤を鶏舎内に全域に設置している。調査時には、発生鶏舎内では殺鼠剤を食べた痕跡が認められた。

（以上）